

クロージング

司会：宇田川健（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ 共同代表）

大島巖（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ 代表理事）

リカバリーフォーラムの最後には、必ず「クロージング」のプログラムを設けます。

クロージングでは参加者の方々に、自分が参加できなかったプログラムで話し合われたことや雰囲気を実感していただくために、グループトークを行いました。



大教室に集まった参加者はおおよそ 450 人。近くに座っている参加者の方々が声をかけあい、6～10 人前後の小グループをつくり、自己紹介をし、それぞれの分科会の内容や話し合われたことの共有化をする場としました。

今回のリカバリーフォーラムのテーマは、昨年同様「リカバリー志向サービスへの転換」というものであり、「クロージング」では、それぞれの人たちが参加した分科会で話し合われた「リカバリー志向とはどのようなものなのか」ということについてお互いに報告しあいました。



おおよそ 20 分の話し合いの時間はどのグループも大いに盛り上がり、会場は、熱気に包まれていました。話し合いの時間が終了し、おおよそ 7 グループの代表者から、話し合ったことや参加しての感想を発表してもらいました。

以下は発表された内容の一部です。



——みなさん、それぞれ、いろいろな分科会に参加したようです。ACTのことなどが非常に勉強になったという話もありましたし、「元気回復行動プラン（WRAP）」のことしか知らなかったのもっと勉強をしたくなりました、という意見もありました。



——「医療現場にリカバリーの希望はあるのか」という分科会に参加して、ユーザーの声を傾聴する必要性を強く感じました／ACTをやっている地域に引越したいと思った／来年のリカバリーフォーラムでは、就労の問題を今以上にとりあげてほしい——といった意見が出されました。

——記念講演のイクタ・ユミコさんからニューヨークの話聞き、アメリカにおいても、様々な努力を重ねた結果として、当事者が政策決定の場に参画できるようになることを知った。当事者主体の意志決定という側面で見れば、日本はまだまだ怒りだしたいような内実であるが、私たちも、積極的に自分自身が動いていく必要を感じた。

——初めて参加をしたが、ピア仲間達がたくさんいて、自分のなかにためた気持ちや思いを充満させて、爆発寸前の勢いを感じた。



こうした話し合いの次に、来年のリカバリーフォーラムへの要望を会場から発表してもらいました。

——結婚をしたりできる、ごく普通の生活が送れるようになるには、どうしたらよいか、という内容にしてほしい。

——就労のことをもっと前面に出した内容にしてほしい
といった意見がよせられました。

最後に、会場全体で、「リカバリー！」という合い言葉で集合写真を撮影して、クロージングセッションを終了しました。